

# 北光

第 151 号

平成23年11月25日

## 学部創立100周年記念行事報告

### 秋田大学工学資源学部創立 100 周年記念式典・講演会

記念講演

「これからの100年に期待すること」  
講師 株式会社秋田魁新報社 代表取締役社長 小笠原直樹氏

記念講演

「鉱山・製錬から環境・リサイクルへ」  
秋田大学と共に、世界へ羽ばたく技術」  
講師 山口県Aホールディングス株式会社 相談役 吉川廣和氏



北光会 (<http://www.hokkokai.com>)

秋田鉱山専門学校  
秋田大学鉱山学部 同窓会  
秋田大学工学資源学部

## 目 次

|                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| 学部創立 100 周年記念行事報告         | 1                |
| 巻 頭 言                     | 菊 地 芳 朗 ..... 6  |
| 学部創立 100 周年をお祝いして         | 吉 村 昇 ..... 8    |
| 学部創立 100 周年を迎えて           | 小 川 信 明 ..... 10 |
| 鉱業博物館リニューアルについて           | 西 谷 忠 師 ..... 12 |
| 学部創立 100 周年をお祝いして・各支部より   | 13               |
| 創立 100 周年を迎えて大先輩からのメッセージ  | 19               |
| 御 宿 実・房 川 世子市・狩 野 豊太郎     |                  |
| 創立 100 周年を迎えて現役学生からのメッセージ | 22               |
| 学部創立 100 周年記念事業報告         |                  |
| 寄附者御芳名                    | 24               |
| 学生の声                      |                  |
| オープンキャンパス「頑張ったで賞」授与式が行われる | 28               |
| 「頑張ったで賞」を受賞して             | 28               |
| 平成 23 年度 第 1 回支部長会報告      | 34               |
| JASSO からのお知らせ             | 36               |
| 北から南から                    | 37               |
| 新刊紹介                      | 47               |
| 母校便り                      | 47               |
| 会員便り                      | 49               |
| 事務局から                     | 49               |
| 計報                        | 51               |
| 編集後記                      | 52               |
| 北光会東日本大震災義援金募金趣意書         |                  |

写真説明：学部創立 100 周年記念式典（於：アトリオン）における「特別編成  
ストリング・アンサンブル」の演奏会。指揮は教育文化学部の四反田教授。  
特に北光寮寮歌・秋田県民歌の演奏には参加者の多くが感銘を受けた。



## 鉱業博物館リニューアルオープン



鉱業博物館玄関前



西谷忠師鉱業博物館長挨拶



除幕された記念パネル



リニューアルされた館内を見学する参加者

秋田大学工学資源学部100周年記念  
鉱業博物館  
リニューアルオープンセレモニー  
記念パネル除幕式  
会場

## 工学資源学部創立 100 周年記念式典

平成 23 年 10 月 1 日(土)、工学資源学部創立 100 周年記念式典が盛大に開催されました。当日は式典に先立ち、午前 11 時から附属鉱業博物館のリニューアルオープンセレモニーが博物館において 237 名が参加し開催されました。セレモニーでは、はじめに西谷忠師博物館長の式辞があり、続いて小川信明工学資源学研究科長の挨拶がありました。この中で、小川研究科長より博物館オープンの歴史、展示の様子などが紹介されました。その後、来賓祝辞として菊地芳朗北光会会長（GS34）より博物館オープン当時の思い出などが紹介されました。引き続き記念パネルの除幕が行われ、平成 24 年 11 月オープン予定の建物の完成予想図が姿を現しました。この建物の一部は 100 周年の寄付によって建てられることになっており、今後の 50 年、100 年にわたって、北光会の新しいシンボルとして親しまれていく事と思います。セレモニーではさらにテーブルカットの後、附属鉱業博物館の西川治先生より展示の概要説明がありました。その中で、1 階は鉱物展示の充実を図り、日本随一の博物館と呼べるようになったこと、2 階は地球の歴史と構造が理解できる展示となり、3 階はこれまでと大きく変わり、資源学の上流から下流までを通して理解できる展示となり、新しい模型を入れることで分かりやすく、時代を反映して自然エネルギー利用に関する展示を取り入れたことなどが説明されました。また、教育文化学部の石井宏一先生からはデザインの観点から、新しい博物館は“見やすく”、“分かりやすく”、“楽しく”をコンセプトに設計され、立体的な展示やパネルを増やしたことが説明されました。

当日の天気予報は生憎の雨、しかしセレモ

ニーが始まるころには陽も差す天気となり、いまだ衰えぬ北光会員の底知れぬパワーを見せつける盛大なセレモニーとなりました。

参加者はその後、館内を見学した後、本日のメインとなる 100 周年記念式典へと移動しました。式典は秋田市の中心部、広小路にあるアトリオンで開催されました。式典には 600 名もの方々が参加し、特別編成ストリングアンサンブルによる記念演奏会から始まりました。指揮は教育文化学部の四反田素幸教授で、ヘンデルやモーツァルトの名曲に続き、四反田先生編曲による北光寮寮歌や秋田県民歌メドレーも披露され、クラシックに負けない素晴らしいメロディーに一同聞き入っておりました。紙面ではその素晴らしさがお伝えできないのが残念でなりません。

記念式典は小川信明工学資源学研究科長の式辞で始まり、この中で工学資源学部の歴史が学科の移り変わりを中心に紹介され、最近の工学資源学部の様子についても説明がありました。また、吉村昇秋田大学長（ES42）の挨拶では、学部設立当時の背景や 2 万 5 千人を超える卒業生が社会で活躍している事、最近の大学の様子に関する話がありました。その後、来賓祝辞として、城井崇文部科学大臣政務官、佐竹敬久秋田県知事（代理、佐々木秋田県総務部長）、穂積志秋田市長よりお祝いの言葉を頂戴いたしました。加えて多くの祝電を頂戴したことが披露されました。また、式典の後には記念講演会が開催されました。講師は DOWA ホールディングス(株)相談役の吉川廣和様と(株)秋田魁新報社代表取締役社長の小笠原直樹様でした。この中で、吉川様からは鉱山専門学校設立時に DOWA の前身である藤田組から 60% の出資があったこ

と、現在は寄附講座を通じて共同研究を行っている事、50名近い卒業生がDOWAに入社している事など、DOWAと工学資源学部との深いつながりについてお話がありました。さらに、秋田は日本有数の資源集中エリアで、Cu、Pb、Zn等の埋蔵量が豊富であったこと、これらを利用して発達した鉱山技術を応用してリサイクル技術へと転換したことの説明がありました。最後に、これからの学生に望む事として、技術力と教養にあふれた人材であること、英語力を身につけること、議論できる能力を身につけることが必要であるとのお話を頂きました。続いて小笠原様からは、鉱山専門学校が創立された100年前は白瀬蘆氏が南極大陸に立った年であり、秋田にとっても非常に記念すべき年であったことが紹介されました。また、その後の日本の変貌についても触れられ、欧米で始まった技術革新の流れに遅れまいと必死に努力しその後の世界大戦での敗戦、戦後の復興と日本は大きく変わってきている、今後の100年をどうするかは非常に重要な課題であるとのお話がありました。また、八郎潟の干拓事業などを例にとり、今後の100年を考えるには夢と希望のあ

る構想が必要で、そのためには他方面からの検討が必要となり、そこに秋田大学の存在意義も出てくることのお話がありました。少子高齢化についても触れられ、これは日本の課題であり、秋田は最先端を行っているのだから秋田大学も積極的にこの課題に立ち向かってもらいたいとの提言も頂きました。

記念講演会の後は、皆様お待ちかねの祝賀会へと移りました。祝賀会はアトリオンからほど近い、秋田キャッスルホテルで盛大に開催されました。参加者は500人超に及び広い会場が満員となるほどの盛会でした。祝賀会では来賓として、衆議院議員の寺田学様、金田勝年様、株式会社秋田銀行取締役頭取の藤原清悦様、東北電力株式会社執行役員三浦政彦（ES50）様、北光会会長菊地芳朗様からお祝いの言葉を頂戴し祝宴となりました。その後は神谷修先生（MS51）の音頭で寮歌の大合唱など、午前中から続いた記念行事の疲れなど一切感じさせない、大変エネルギーギッシュな祝宴となりました。最後は西田眞理事・副学長（ES49）の乾杯で幕を閉じました。50年後、100年後の学部と北光会の更なる発展を切に希望いたします。

## 祝創立 100 周年と東日本大震災義援金について

北光会会長 菊 地 芳 朗 (GS34)



創立 100 周年誠に  
めでございます。

平成 23 年 10 月 1 日、秋  
田大学工学資源学部創  
立 100 周年記念式典が  
挙行されました。

秋田大学工学資源学  
部は、その前身である

秋田鉱山専門学校が明治 43 年に地下資源開発  
技術者の養成を目的に設立されてから、戦後昭  
和 24 年新制大学として秋田大学鉱山学部とな  
り、更に平成 10 年秋田大学工学資源学部と名  
称を変え、本年で 100 周年を迎えました。

この間、一貫して広い意味での資源開発に関  
する教育を行い、人材を世に送ってきました。

最近、本校は資源教育の拠点と認められ教員  
の増強等破格の恩恵を受け「国際資源学教育研  
究センター」が設立され、我が国の資源教育の  
中心となってボツワナ、モンゴルなど資源国に  
対し協力支援をすることになりました。  
誠に喜ばしいこととお祝い申し上げます。

これが出来たことは、今日までの 100 年  
間にわたり研究と教育をなされてきました歴代  
の諸先生と業界で活躍してきました卒業生皆様  
の賜であることを忘れてはなりません。

しかし、このことは我が国の資源外交の一翼  
を担うものです。資源外交は言葉を換えれば資  
源競争・資源戦争であります。

競争であれば、これは勝たなければならなり  
ません。今後の更なる学術研究の発展と教育の  
充実を期待するものであります。  
北光会としても協力を惜しむものではありません。

創立 100 周年記念事業の一つに鉱業博物館の

拡充・整備があります。

鉱業博物館は創立 50 周年の記念事業として  
昭和 36 年に建設され、10 月 8 日に昭和天皇、  
皇后両陛下の御臨幸を仰いで開館致しました。  
15 日には創立 50 周年の記念式典を行い一般に  
公開されました。

その後、鉱業博物館創立 30 周年で展示物の  
リニューアルを行いました。鉱業博物館につい  
て学外の皆様からは、お世辞を含めてと思いま  
すが素晴らしい博物館であるとの声を聞きました。  
しかしながら卒業生からは展示物のことで  
色々な意見が聞こえてきました。その最たるも  
のは「あれでは恥ずかしい」との一言でした。  
そこで、この度の創立 100 周年の記念行事とし  
て鉱業博物館の拡充・整備を行うことになりました。

私には建設当時の思い出があります。  
50 年前の 10 月初めに鉱業博物館の工事現場を  
見学に行きました。道路工事をしておりました。  
そうしましたら加賀谷先生が私の手を握って涙  
を流して感謝の言葉を述べられました。私はそ  
の時、驚いて良く意味が分かりませんでした。

それは両陛下が御臨幸されるため、宮内庁で  
事前に道路を調査したところ、この道路ではア  
スファルトが弱く陛下の自動車は通れない、と  
云われました。残り日数も少ないのですが、急  
遽工事をやり直すことになりました。当時工事  
用の重機を持っているのは自衛隊と私の勤めて  
いる会社ぐらいでした。

私が勤めていた頃、鉱業所の所長は寺井和志  
蔵さんと云いまして大正 15 年採鉱卒の先輩で  
した。寺井さんは会社の重機を提供して緊急工  
事を行ったわけです。加賀谷先生は、これに対  
するお礼でした。



加えて建設資金の返済など大変苦勞して、この鉾業博物館は完成しました。

今回の拡充・整備事業で我々後輩卒業生として、加賀谷先生・丹先生を初めとした鉾業博物館建設当時の諸先輩のご苦勞に何万分の1か何百万分の一でもお手伝いできたのかと思っております。

鉾業博物館は学校の一般研究はもとより国際資源学教育研究センターにも貢献できるものです。更に社会一般に開放され市民の生活向上に寄与することも大切なことです。今後の鉾業博物館の発展を祈るものです。

今回は巻頭言ですが、ここで募金状況についても一言述べておきます。最初に、この記念式典や鉾業博物館の拡充・整備の出来ましたことは、ご芳志を賜りました皆様のお陰と厚くお礼申し上げます。

10月31日現在、募金金額は4,544名(件)総額1億9,787万円で、内訳は

|       |        |         |
|-------|--------|---------|
| 企業    | 261社   | 5,897万円 |
| 篤志家   | 20名    | 151万円   |
| 教職員   | 180名   | 1,138万円 |
| 学部後援会 | 13回    | 2,963万円 |
| 北光会   | 4,070名 | 9,638万円 |

であります。

募金期間は9月30日で締め切られましたが、まだ寄付を行いたいという会員や企業がおりますので、引き続き寄付をお受け致しますので宜しくお願い致します。

次に東日本大震災ですが、会員の被害状況を調査した結果、直接津波災害による死亡者が4名、避難先などでの病死者が2名、家屋などに被害を受けられた方が30名近くおられました。改めて、犠牲になられた方のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災されました皆様には衷心よりお見舞いを申し上げます。北光会としても、義援金募金を行うことに致しました。皆様のご協力をお願い致します。

この災害で思うことですが、「天災は忘れた頃に来る」は寺田寅彦博士の有名な警句ですが、博士の著作には直接この言葉はありません。しかし、多くの著書を見ますと、このような警句を述べていると云われております。

その中の一つに大正9年に発表された「天災と国防」があります。

博士はこのなかで「文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその激烈の度を増すという事実である」と述べております。

このことは、人類が未開な頃は洞窟の中に住んでいて、たいていの地震や暴風でも平気であつたろうが、文明が進むに従って人間は次第に自然を従服しようとし、重力に逆らい、風圧水力に抗する色々な造営物を作った。これが災害で壊れ被害を大きくする、と云うことを述べております。今回の災害でも大丈夫と思われた防波堤の破壊など大きな被害がありました。

その最たるものは、現代の科学と文明の賜と思われた原子力発電所が破壊され、大変な災害となったことです。

想定外の津波と云っていますが、今回の津波と同程度の津波が既に869年の貞観津波で知られておりました。これに対する対策は取られておりませんでした。

原子力は安全と云うもとに、原子炉冷却水の除染装置や原子炉建屋内の自走ロボットなどの対策さえ取られておりませんでした。

原子力関係者は本当に「原子力発電は安全」という思いでいたのでしょうか。

物事には絶対安全ということはありません。

我々は今回の事故を反省し教訓としなければなりません。それにしても、その代償は余にも大きいものでした。

8月27日東北支部「震災復興がんばろう大会」に出席の折、津波の被害跡を見てきました。被害の甚大さと津波エネルギーの大きさに、ただただ驚いてきました。更に復旧・復興作業の遅れていることを実感してきました。

# 学部創立 100 周年をお祝いして

秋田大学長 吉 村 昇 (ES42)



秋田鉱山専門学校がこの地に産声を上げてから 100 年。この間、今日にいたるまで、レアースやレアメタルを巡る昨今の動向を持ち出すまでもなく、いかに資源を安定確保するかという命題

は、常にこの国につきまっております。

本日は、文部科学省 大臣政務官 城井崇様、秋田県知事 佐竹敬久様、秋田市長 穂積志様はじめ多くのご来賓の皆様には、お忙しいなか、秋田大学工学資源学部創立 100 周年記念式典にご臨席いただき、栄えある創立 100 周年記念式典を開くことができました。秋田大学を代表して厚くお礼申し上げますとともに、これからも引き続き、我が国の資源外交の一翼を支えるため、国内外にその存在を示していけるよう務める思いを強くしております。

「鉱山・資源」の歴史を顧りみますと、100 年前の明治 43 年、現在の秋田市手形に秋田鉱山専門学校が設置され、その第 1 歩を踏み出しました。当時は、「鉱業法」が施行されるなど、近代日本の鉱業の最初の黄金期であり、鉱山冶金技術者養成機関の拡張が国家的要請の時期でもありました。また、同時期の秋田県は、地下資源の豊富な鉱山県でもあり、このような背景から、秋田に多くの鉱山を有する 3 大財閥の藤田伝三郎、岩崎久弥、古河虎之助並びに秋田県・秋田市が、鉱山開発と人材育成を目的とした学校設立のための寄附を行い、文部省の認可を得て採鉱学科、冶金学科からなる秋田鉱山専門学校が設立されました。爾来、志と情熱に溢れ、

全国から馳せ参じた諸先輩の尽力により、世界に雄飛する日本の象徴として活躍し、鉱山史に大きな足跡を残したところであります。

昭和 24 年、創学の志を引き継ぎ全国唯一の鉱山学部として再出発し、同窓会である北光会の多大な協力を得ながら、世界有数の鉱業博物館を併設するなど、教育・研究など様々な分野で顕著な業績を挙げてまいりました。平成 10 年、時代の趨勢とともに、工学と資源学の両分野を併せ持つ日本唯一の工学資源学部に改組、大きな転換点となった平成 16 年の国立大学法人化を経て、これまで巣立った人材は、25,000 人に及びます。秋田大学を母校とするこのたくましく卒業生たちは、国内外で活躍し、その歩を休める間もありません。

国立大学として法人化後 8 年目を迎え、地域との深い絆の構築や、国際水準の教育・研究推進をはじめとする国際交流の強化など、存在感の発揮が強く求められております。私も、この 4 月で学長就任 4 年目に入り、様々な視点からの発想を重視しながら、「選択」と「集中」を基軸とした大学運営に臨んでおります。地域創生センターや横手分校・北秋田分校などの新設は、法人化の利点を最大限に活用した取り組みの一例であり、なかでも、伝統と業績を活かした「資源の安定確保」「資源の再生」には、特に全力を注いでおります。

近年、鉱物資源やエネルギー資源の需要が世界的に高まり、レアメタル資源などの確保が難しくなっております。日本で唯一、鉱山・資源学を体系的に教育・研究でき、資源循環型社会へも対応できる大学として、文部科学省をはじめ国内外から高い評価を受けている本学は、この



喫緊の課題対応のために大きな期待を担っており、存在感が日増しに高まっているところであります。

平成 21 年 10 月、国際的視野を持つ資源人材養成のための教育・研究拠点として、国際資源学教育研究センターを設立しました。日本の資源外交の一翼に、ここ秋田の地から支えようという挑戦であり、文部科学省の支援の下、教員の長期派遣や留学生・研修生の受入れ、アフリカボツワナ共和国やモンゴルの鉱山系大学・学部新設、カザフスタンの資源開発など、グローバルな視点からの支援・協力を進めております。また、資源再生分野では、平成 22 年 4 月、産学官共同研究の拠点としてベンチャーインキュベーションセンターを設置いたしました。日本有数のエコリサイクル拠点である、秋田県北部エコタウンを活用し、同和ホールディングス株式会社を初めとするリサイクル企業等との共同研究による世界トップクラスの都市鉱山の進化を支援し、アーバンマイン技術者養成プログラムなどによる人材育成も行っております。この 7 月には、本学の顕著な研究業績として、玉川温泉の温泉水から 14 種類のレアアースの抽出

に成功しました。本学の教育研究水準の高さと資源を抱える秋田の潜在力を再認識するものであり、躍動し、進化し続ける本学の姿を顕示するものと自負しております。

伝統ある大学として時代の趨勢に対応し、大きな存在感と影響力を保持する本学は、支援下さる皆様やわれわれ教職員にとって誇りと励みの源泉であります。同時に、この輝かしい財産を維持・発展し続けるという、我々に課せられた責務を遂行するため、次代に繋げる努力を怠らず、真摯な姿勢で追究することを学長としてお約束いたします。

最後に、この 100 周年記念に当たり、多大なご支援・ご協力を賜りました関係各位、諸先輩、教職員の皆様に、改めて感謝申し上げるとともに、とどまることのない本学の歩みに、ますますのご指導・ご鞭撻を切にお願いし、100 周年記念式典にあたりましてのご挨拶といたします。

本日は、まことにありがとうございました。

秋田大学工学資源学部創立100周年記念式典挨拶  
(平成23年10月1日 秋田アトリオン音楽ホール)

# 学部創立 100 周年を迎えて

秋田大学工学資源学部長 小 川 信 明



10月1日(土)に行われました一連の100周年記念式典におきまして、挨拶をさせていただき、私の目から見ました、感じましたその内容を紹介させていただきます。

まず、鉱業博物館のリニューアルオープンですが、わが研究科附属鉱業博物館は、1910年(明治43年)の鉱山専門学校設置に合わせて、列品室として設立され、その後種々のことがありましたが、現在の形になりましたのは、1961年(昭和36年)のことです。その後も、皆様からのご寄附等もありまして、現在では、標本数は、15,000点を超しており、国内外でも、有数の有名な博物館となっております。また、最近では、県内の観光スポットとしても人気が高いようです。

学部創立100周年記念募金の1部を使わせていただき、リニューアルオープンすることができたわけですが、募金活動をしてくださいました。吉村学長・菊地北光会会長、ご協力いただきました会員や教職員の方々に感謝申し上げます。その募金以外にも、今回のリニューアルオープンに合わせまして、標本や物の寄付・寄贈をしていただきました。寄付をしていただいた方々、寄贈していただきました方々に、深く感謝する次第であります。学部内の内輪の話で申し訳ありませんが、このリニューアルオープンに際しましては、博物館・学部の教職員・学生はじめ、学部の技術職員の皆様にも、献身的なご支援をいただきました。おかげをもちまし

て、このリニューアルオープンが挙行できたことに感謝を申しますとともに、皆様のご努力をたたえたいと存じます。また、お集まりの200名にも及ぶ皆様方のご参加を得まして、博物館が、リニューアルオープンできましたことに感謝申し上げます。

午後からの式典にさきがけ、アトリオンにおきましては、教育文化学部の四反田教授指揮での、特別ストリング・アンサンブルによります記念演奏会がありましたが、素晴らしい演奏であり、とくに、北光寮寮歌が今回のために編曲され、演奏されたときには、涙が出るほど感慨がこみ上げてきました。式典では、城井政務官、国会議員各位、穂積秋田市長を始め多数の来賓のご臨席を頂き、また、常日頃ご支援・ご協力を頂いております関係各界の方々、そして同窓諸先輩など学内外から600名にも及ぶ多数のご出席を頂き、この記念式典が挙行できたことは、私にとって無上の光栄とするところでございました。

この100年間の実績に裏打ちされた資源学分野での最近の業績としては、資源開発を支える人材育成を目的とした「資源開発人材育成プログラム」の採択があり、また、国際的視野を持つ資源人材養成と国際資源人材のネットワーク構築を目的とした「国際資源学教育研究センター」の設置があります。特に国際資源学教育研究センターは、工学資源学部及び工学資源学研究科との密接な連携の上に設置されたものであり、海外の資源保有国からの資源系大学設立の協力要請や高度な資源開発人材養成などに対応し、資源学分野の世界的教育研究拠点を目指しております。その他に、大学の個性を活かし

秋田県との連携による、資源、環境、リサイクルに関する地域再生人材育成の事業として「あきたアーバンマイン技術者養成プログラム」を実施しております。

秋田大学工学資源学部 of のさらなる発展を求め、将来を展望するときに、これまでの100年の歴史を糧として、巡りくる125周年、150周年、200周年に向かって胸を張って誇れる工学資源学部を作り上げるために、より一層の努力を約束しまして、式辞といたしました。

式典の後、アトリオンにおきまして、吉川廣和 DOWA ホールディングス(株)相談役と小笠原直樹秋田魁新報社社長に記念講演を賜りました。吉川相談役には、歴史的にDOWAと秋田大学 of の関係をお話いただき、また、今後の学生教育についても、ディベート力が必要であるなどのご意見をいただき、小笠原社長には、今後の100年に向け、変化を嫌わず、思慮深く、行動できる人材を育てるようにという、いずれも記念講演会にふさわしい示唆に富むお話をいただき、本当に感銘いたしました。ありがとうございました。

その後の祝賀会は、やはり、文部科学省、国会議員各位、他大学の先生方、教職員、卒業生、一般の方々など500名を超えるの方々のご参

加 of のなかで、挙行されました。1910年学部設置からのわが学部の発展は、ひとえに、文部科学省、国会議員各位、自治体、企業のご支援、卒業生のご活躍があつてのことだと思っております。また、これからのさらなる発展 of の100年に向けたスタートを切れたものとも存じておりますし、今後の学部のさらなる発展に皆様のお力をお貸しくださればと存じます。

このような祝賀 of の一方で、3月11日の東日本大震災がおきまして、多数の犠牲者と多大の被害を東北にもたしました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、いち早い復興を祈念しております。この震災以降、秋田大学工学資源学部は技術・研究・教育をもつてして、全力を傾注して、日本の復興に取り組んでいるところであります。

もうひとつ、記念事業として、記念募金 of の一部を使い、泰松教授を中心に100周年 of の記念史が編纂され、この日に合わせて立派に完成し、皆様にご覧いただけたことも、ここにご報告でき、大変うれしく存じております。

最後に、この一連 of の式典が成功裏・盛会裏に終わりましたことに感謝申し上げます。

ありがとうございました。

# 北光会東日本大震災義援金募金「支え合おう新たな未来を」 東日本大震災で被災された北光会の仲間への支援募金 趣 意 書

北光会会長 菊 地 芳 朗

今年、工学資源学部は前身の秋田鉱山専門学校の創立から数え 100 周年を迎えました。平成 23 年 10 月 1 日に記念式典が挙行され、100 周年記念事業に関しての一区切りがつき、北光会としても学部とともに次のステップに踏み出したところであります。100 周年記念事業に際しましては、募金活動を含め北光会でも全面的に協力させていただきました。ここに改めて、ご協力並びにご支援いただいた北光会会員の皆様に心から感謝申し上げる次第でございます。

さて、工学資源学部が 100 周年という節目を迎えた一方で、平成 23 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災は、日本のみならず世界中に大きな衝撃を与えたことは、8 ヶ月たった現在でも記憶に新しいところでございます。改めて、震災で犠牲になられた方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さんには心よりお見舞いを申し上げます。被災地ではまもなく冬を迎えることとなりますが、いまだに復旧や復興の目途すら立たず不自由な生活を強いられている方が大勢いるようです。加えて、原発事故による 2 次災害の影響が徐々に明らかになり、これに対する国の対応も後手に回っているようで、具体的な対応が行われるまでにはまだ時間がかかるようです。

北光会では、震災直後より被災された会員への援助について検討し、これまで、被災した在学生への援助、北光誌を通じた会員の消息の把握などを行ってまいりました。現在わかっているだけでも 4 名の方が津波で亡くなり、多くの方が家屋に被害を受けています。そこで、工学資源学部の 100 周年を契機に、北光会の新たな一歩として「支え合おう新たな未来を」をスローガンに被災された北光会の仲間の支援を企画させていただきました。

会員の皆様におかれましては、既に様々な形でご支援をされておられる方も多くいらっしゃると思いますが、被災された北光会の仲間を直接支援させていただき趣旨をご理解いただき、何卒、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 記

### 1. 義援金の振り込み方法

- 振込用紙：北光 151 号同封郵便振替用紙（振込手数料北光会負担）
- 振込金額：1 口 2,000 円 1 口以上何口でも結構です。
- 領収書：郵便局の受領証をもって代えさせていただきます。

### 2. 義援金受付期間

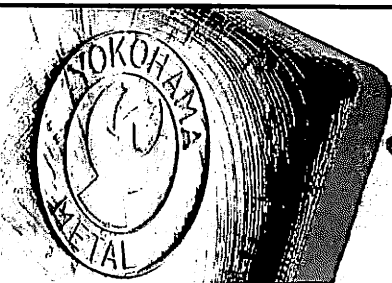
平成 23 年 11 月～平成 24 年 3 月末

### 3. その他

「義援金払込用紙」は、「北光」送付のシステム上送付者全員に同封されますので、被災された会員の皆様にも送られることになります。該当される会員の皆様におかれましては、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

以 上





# 横浜金属株式会社

終りのない鉱脈は、都市にある。  
純銀 999.9

*Gold Silver Platinum Palladium Rhodium Ruthenium*

- 社団法人日本金地金流通協会正会員
- L.M.E.(ロンドン金属取引所)銀地金公認ブランド
- 東京工業品取引所 銀地金受渡供用品指定ブランド
- 東京工業品取引所 銀地金指定鑑定業者
- 日本工業規格認証取得工場(銀地金)
- ISO9001認証登録(横浜金属株式会社)
- ISO14001認証登録(横浜金属商事株式会社)
- ISO9002認証登録(裕昌金属工業株式会社)
- 社団法人日本経済団体連合会会員(横浜金属株式会社)

貴金属 精製・精錬

貴金属 歯科材精製・材料販売

貴金属 工業材料

貴金属 宝飾品加工販売



YOKOHAMA METAL CO.,LTD.

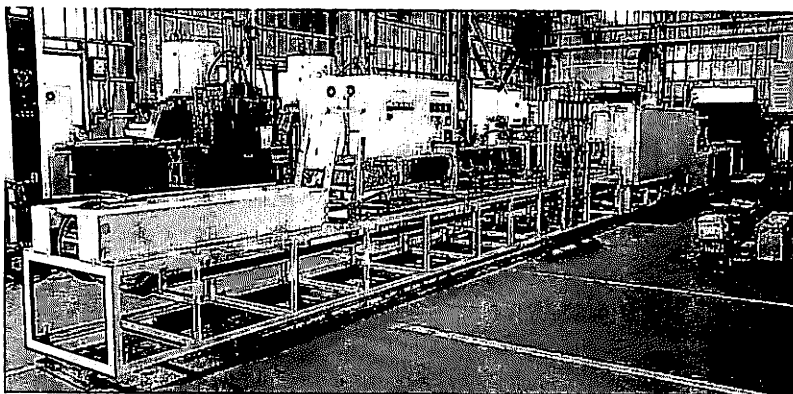
## 横浜金属グループ

横浜金属商事・JCY・裕昌金属工業(韓国)

本社/〒252-0132 神奈川県相模原市緑区橋本台3-5-2 Tel.042(773)4411 Fax.042(773)4775  
<http://www.yk-metal.com>

ステンレスの光輝焼鈍・硬化処理

精密鍛造の光輝球状化焼鈍



株式会社 **サーマル**

〒173-0014 東京都板橋区大山東町38-8

Tel.03-3962-4011 Fax.03-3963-0694

URL <http://www.e-thermal.co.jp> E-mail [thermal1@sepia.ocn.ne.jp](mailto:thermal1@sepia.ocn.ne.jp)